

令和元年度天皇杯受賞者受賞理由概要
畜産部門

国産飼料に立脚したゆとりの有機牛乳生産

○氏名又は名称 有限会社石川ファーム（代表 石川 賢一）

○所在地 北海道網走郡津別町

○出品財 技術・ほ場（飼料作物（単年生））

○受賞理由

・地域の概要

津別町は、北海道東部の内陸部に位置し、総面積の86%を森林が占める典型的な中山間地域である。農業については、畑作と畜産が重要な作物となっている。環境に配慮した農畜産物「津別ブランド」の確立を進めている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

石川ファームは平成12年に町内酪農家19戸とともに「津別町有機酪農研究会」（以下「研究会」という。）を設立した。研究会では輸入飼料や化学肥料・薬剤に頼らず、有機自給飼料による牛乳生産を目指し、試行錯誤を重ねた。多くの酪農家が断念する中、石川ファームは地域の多くの関係者の協力のもと、有機飼料栽培技術を確立し、17年に完全有機に転換した。翌年、会員数5戸となった研究会が日本初の有機牛乳のJAS認証を取得し、製品の販売が開始され、現在に至るまで通常より高いプレミアム価格で販売されている。現在、代表取締役の石川氏は研究会会長としてリーダーシップを発揮している。

・受賞者の特色

（1）有機自給飼料作物栽培に基づく有機牛乳生産

- ① 時間と手間のかかる有機飼料を自ら栽培するとともに、有機畑作農家が輪作で栽培した飼料用とうもろこし（イアコーン）を利用するなど、高品質な国産有機飼料を確保して、北海道の平均58%に比べ78%と高い飼料自給率を達成している。
- ② 栽培、飼養管理において、GPSと自動操舵を組み合わせた真空播種機や搾乳ユニット自動搬送装置「キャリロボ」を活用するなど積極的に新技術を取り入れるとともに、TMRセンター設立・利用や放牧により労働時間を削減している。なお、経産牛43頭規模で、主労働力である石川夫妻の1日1人当たりの労働時間はおよそ5時間と極めて短い。夫人は酪農教育ファームやグリーンツーリズムの担当として活躍中である。

（2）関係者の輪の中で持続的な生産

有機牛乳の生産・販売には、研究会だけでなく農協、TMRセンター、畑作農家、乳業メーカーなど多くの関係者が係わっているが、持続的な生産活動を行えるよう、例えばTMRセンターの運営費を考慮して有機飼料の購入価格を決定するなど、コストを分担する関係を構築している。

・普及性と今後の発展方向

石川ファームでは高栄養の自給飼料生産拡大により飼料自給率100%を目指している。有機農業はSDGsアクションプラン2019の優先課題に位置付けられており、環境と地域経済を共存させた持続的な生産活動の成功事例として普及性が期待できる。